

授 業 計 画 (シラバス)

【2020～2021年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鬼頭 和弘	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。環境工学、建築計画、建築設備の3分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史		
4 ～ 7 時間目	環境工学の用語・単位と環境問題		
8 ～ 11 時間目	空気汚染		
12 ～ 15 時間目	音湿度		
16 ～ 19 時間目	換気・通風		
20 ～ 23 時間目	伝熱、結露		
24 ～ 27 時間目	日照・日射・日影・採光		
28 ～ 31 時間目	音響・吸音・遮音・残響		
32 ～ 35 時間目	光・色彩		
36 ～ 39 時間目	専用住宅		
40 ～ 43 時間目	集合住宅・住宅地の計画		
44 ～ 47 時間目	商業建築・事務所建築		
48 ～ 51 時間目	公共建築		
52 ～ 55 時間目	各部計画、住宅生産		
56 ～ 59 時間目	設備用語、空調設備		
60 ～ 63 時間目	冷暖房設備		
64 ～ 67 時間目	給水設備・排水設備		
68 ～ 71 時間目	電気設備、照明設備		
72 ～ 75 時間目	防災・消防設備		
76 ～ 79 時間目	省エネルギー設備		
80 ～ 82.5 時間目	搬送・ガス設備		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050101

授 業 計 画 (シラバス)

【2020～2021年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・法規		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。 過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語の定義		
4 ～ 7 時間目	面積・高さ等の算定方法		
8 ～ 11 時間目	建築基準法の手続き等		
12 ～ 15 時間目	換気・採光・シックハウス対策		
16 ～ 19 時間目	一般構造		
20 ～ 23 時間目	防火規制		
24 ～ 27 時間目	内装制限		
28 ～ 31 時間目	避難施設		
32 ～ 35 時間目	構造計算		
36 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造		
40 ～ 43 時間目	木造・その他の構造		
44 ～ 47 時間目	道路		
48 ～ 51 時間目	用途地域		
52 ～ 55 時間目	容積率		
56 ～ 59 時間目	建蔽率		
60 ～ 63 時間目	高さ制限		
64 ～ 67 時間目	防火地域・準防火地域		
68 ～ 71 時間目	建築士法		
72 ～ 75 時間目	建設業法・宅地建物取引業法		
76 ～ 79 時間目	バリアフリー法・耐震改修促進法		
80 ～ 82.5 時間目	都市計画法・消防法		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著 者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050102

授 業 計 画 (シラバス)

【2020～2021年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。構造力学・構造計画・一般構造・構造材料の4分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語と単位・断面の性質		
4 ～ 7 時間目	応力度・許容応力度		
8 ～ 11 時間目	力のモーメント・釣合・合成と分解		
12 ～ 15 時間目	反力		
16 ～ 19 時間目	静定梁		
20 ～ 23 時間目	静定ラーメン		
24 ～ 27 時間目	静定トラスの応力(節点法)		
28 ～ 31 時間目	静定トラスの応力(切断法)		
32 ～ 35 時間目	座屈(座屈長さ・座屈荷重)		
36 ～ 39 時間目	荷重及び外力		
40 ～ 43 時間目	地盤及び基礎		
44 ～ 47 時間目	木構造		
48 ～ 51 時間目	補強コンクリートブロック造・壁式鉄筋コンクリート造		
52 ～ 55 時間目	鉄筋コンクリート構造		
56 ～ 59 時間目	鉄骨構造		
60 ～ 63 時間目	構造計画		
64 ～ 67 時間目	構造材料(木材)		
68 ～ 71 時間目	構造材料(コンクリート材料強度・調合)		
72 ～ 75 時間目	構造材料(鋼材・金属材料)		
76 ～ 79 時間目	その他の各種材料		
80 ～ 82.5 時間目	建築材料(用途・全般)		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			050103

授 業 計 画 (シラバス)

【2020～2021年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・施工		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	石橋 敦士	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅳ」分野の学習を行う。施工管理、各種工事、積算、測量について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	施工計画、工程管理、		
7 ～ 12 時間目	安全管理、品質管理		
13 ～ 18 時間目	土工事		
19 ～ 24 時間目	仮設工事		
25 ～ 30 時間目	型枠工事		
31 ～ 36 時間目	鉄筋工事		
39 ～ 42 時間目	コンクリート工事		
43 ～ 48 時間目	鉄骨工事		
49 ～ 53 時間目	木工事		
54 ～ 58 時間目	補強コンクリートブロック工事		
59 ～ 64 時間目	防水工事、左官工事		
65 ～ 70 時間目	タイル工事、塗装工事		
71 ～ 76 時間目	内装工事、施工機械・器具		
77 ～ 82.5 時間目	測量、積算		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著 者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050104

授 業 計 画 (シラバス)

【2020～2021年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (積算)		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	25
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑥ 授業形態	実習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築積算士補受験のための学習を通して、建築全般にかかわる積算業務の概要と、コスト意識を学ぶことを目的とする。			
⑪ 授業の概要			
日本建築積算協会の「建築積算士補」認定講習を行う。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 1 時間目	建築積算とは		
2 ～ 2 時間目	建築生産プロセスの概要と建築積算		
3 ～ 3 時間目	入札とは		
4 ～ 4 時間目	積算業務の概要		
5 ～ 5 時間目	設計図書とは		
6 ～ 6 時間目	工事費の概要		
7 ～ 8 時間目	建築コストにおける数量と単価		
9 ～ 10 時間目	内訳書とは		
11 ～ 12 時間目	建築数量積算基準		
13 ～ 14 時間目	数量の計測計算 (土工)		
15 ～ 16 時間目	数量の計測計算 (躯体)		
17 ～ 18 時間目	数量の計測計算 (仕上)		
19 ～ 20 時間目	数量の計測計算 (インテリア)		
21 ～ 22 時間目	仮設工事・設備工事の積算		
23 ～ 24 時間目	建築積算の応用分野		
25 ～ 25 時間目	建築積算士補試験実施		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築積算・別冊	出版社：(社)日本建築積算協会
	教材		著 者：(社)日本建築積算協会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050215

